

学びあい支えあう地域づくりのために、今の私たち出来る
等身大の活動を。そして、楽しく！

活動の概要

学校を卒業後、障がい者が地域社会の中で、当たり前のように生活し、社会参加していくためにできることをしていこうという目的で、養護学校卒業生の親、元職員で立ち上げました。

1年後に卒業生を事務局メンバーに迎え、当事者も含めて共に学びあい、支えあう社会実現に向かって、今の私たち出来る活動を見極め、取り組んできました。

主な活動として、①緊急時の一時ステイや生活学習に利用してもらう泊を伴うショートステイである「ほっとステイ」 ②自宅への訪問、長い入院時のつきそいの交代など24時間介護が必要な障がい者の家族の方に少しのゆとりをもっていただけるようお手伝いする「レスパイトケア」 ③訓練相談やPT・動作訓練を専門の先生にきていただいて行う「療育相談会」(18年度からは音楽療法も実施) ④福祉の制度の学習や情報交換など自由なおしゃべり会である「トークイン・ほっとぽっと」 ⑤働く力を身につけながら、仕事を創りだすことをめざす「ワークトレーニング」(4月から養護学校卒業生が事務局スタッフとして活動、バザー・販売活動も仕事として取り組む) ⑥障がい者と市民のみなさんが、一緒に学び、楽しみ、ふれあう会を企画「ほっと塾の開催」などに取り組んでいます。

また、毎年地域の小学校で依頼に応じて福祉学習のお手伝いや、平成20年からは須磨ネットのみなさんとラオスの子どもたちに手作りノートを送る活動もしています。

成果

車いすのメンバーがどこにでも出ていくことで、たとえば段差の問題、トイレの問題などがその場に参加する全員に分かってもらえるようになってきました。

いろいろな人と出会う中で、お互いにまさに学びあう機会をたくさん持て、同時に、新しい活動を広げていくチャンスをたくさんいただきました。



朗読発表会

課題

活動の広がりのために、新しいメンバーを迎えること。また、メンバーが高齢化してきているので、今の志を引き継いでくれる若いメンバーを獲得すること。

夢・抱負・今後の推進方向

地域の中で、障がい当事者が働き、また、その活動が地域の人たちに貢献できるような事業所をつくっていきたい。また、重度の障がい者やその家族が集まり、相談したり、緊急時に一時的に応援の手を差し伸べられる場所にしたい。

団体名：特定非営利活動法人ほっとぽっと

氏名：森岡 千代

事務所の所在地：神戸市須磨区大池町5丁目14番7号 605

電話：078-733-5141 FAX：078-733-5141

E-mail：hot-pot@hi-net.zaq.ne.jp

ホームページ：http://www.hi-net.zaq.ne.jp/hot-pot

ノウハウ・コツ

②活動資金

助成金申請で強くなる！

活動を始めた頃の当会の収入は、20名足らずの会員の会費のみ。何を始めるのにもメンバーの持ち出しを覚悟しなければなりません。各種の財団法人の助成金に応募した中の一つで60万円の助成金を頂き、私たちの最初の事業、「ほっと塾」を開催することができました。

この取り組みの中で学んだこと、出会った人たちは私たちの大切な財産です。助成金は、申請にあたって面倒な書類やプレゼンテーションがあるため敬遠されがちですが、自分たちがどういう志で、何をしたいのかをきちんと伝え、助成先として選ばれるのは、とても勉強になり、自信にもなります。若いスタッフを鍛えるチャンスと考え、積極的に申請してきました。

⑤広報・情報共有

広報誌でつながる

活動をはじめて4年余り、月1回の「ほっとNEWS」を欠かさず続けてきました。もうすぐ50号を迎えます。はじめはA42ページ程度のものでしたが、段々に内容が広がり、今はA4、4～6ページに。部数も30部位から始まり150部位になりました。

不特定多数に配るのではなく、いろいろな事業に参加いただいた人、お世話になった人などに日常の活動を知っていただくのにお送りしています。めったに会えない人にも月1回の近況報告になり、つながりを維持するのに役立っています。

私たちの思いを表現し、読んでもらえる通信にと心がけています。

⑥ネットワークづくり

会議やイベントに出席する

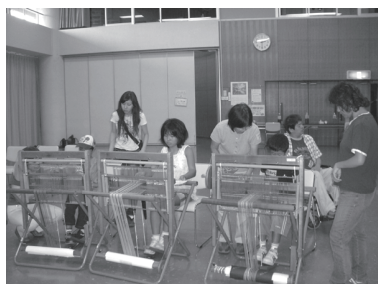
障がい者の社会参加の場を広げたいという理念から、機会を見つけて、いろいろな会議やイベントに参加するようにしています。お誘いや依頼は可能な限り、基本的には断らないをモットーにしています。

私たちが最初に参加させていただいたのは、ボランティアグループの「須磨ネット」の連絡会でしたが、勉強させてもらい、活動の場をいただきました。なにより、車いすのメンバーを当たり前仲間としてお付き合いいただける本当に貴重な場となりました。

いろいろなボランティアグループに私たちが取り組む行事にコラボレートしてもらうことも多くなりました。お互いの活動を活かすことができ、また参加の呼びかけも幅が広がります。



PC 講師養成講座



あひあひのわっ！手作りの会



医療的ケア講座

ひとことメッセージ

助成金などはインターネットで検索すれば、たくさんあります。活動し始めは、闇雲に何かしようとしていたこともあります。試行錯誤の中で、やることははっきりしてくることもありますし、何かすれば、その中で新しい出会いもあります。まさに「犬も歩けば棒にあたる！」でしたね。

新しい試みをして、うまくいき、次に何をしようかと考えている頃が一番楽しいときかもしれません。

外出や旅を通した生きがいがづくりを支援

活動の概要

少子高齢化が進む現代にあって、高齢者にゆとりあるライフスタイルを提案・支援する事業を行い、心のバリアフリーの創造に寄与することを目的として活動しています。外出や旅を通した生きがいがづくり支援事業として「しゃらく旅倶楽部」という旅行業務を行っており、普段外出の機会のない高齢者や、結婚式・同窓会といった催しに参加したくても身体が不自由であきらめていた方に、外出や旅を楽しんでいただき、心身ともに充実したいきいきとした生活を送ってもらいたいと考えています。

企画では、しゃらくのスタッフが付き添って旅のお手伝いをするところから、必要に応じてホームヘルパー2級以上の資格を持ったエスコートヘルパーを伴うこともでき、旅先でのケアを万全にしています。

お客様の要望に合わせたオーダーメイドのプランを中心に活動していますが、今後はもっとたくさんの人に楽しんでいただけるよう、パッケージプランも提案していく予定です。高齢になっても、いきいきとした生活を過ごすことができる社会をめざして今後も活動していきます。

成果

利用者は年々増えています。利用者の希望も多様化しているため、それに合わせて旅の内容も充実させ、パッケージツアーをつくるなどプランを多様化させています。

課題

活動の輪を広げ、一人でも多くの人に参加していただくことが課題です。

そのため、魅力あるプランを提案し、また、見やすくわかりやすい旅の案内冊子を作るように心がけています。実際の旅行記録を掲載しながら、具体的なイメージの湧くものにしていきます。



夢・抱負・今後の推進方向

いくつになっても行きたいところに行ける、そのような人としての楽しみを諦めないことで高齢者が過ごしやすい社会の創造に寄与していきたいと考えています。

一人でも多くの人に旅行を楽しんでもらうことが重要だと考え、オーダーメイドやパッケージツアーを充実させます。同時に、独居高齢者にも何らかの旅行を提供したいと考え、今後、行政や地域団体などと連携していく考えです。

団体名：特定非営利活動法人しゃらく

氏名：小倉 譲

事務所の所在地：神戸市須磨区須磨寺町2丁目2番4号

電話：078-735-0163 FAX：078-735-0164

E-mail：sharaku@123kobe.com ホームページ：http://www.123kobe.com

⑨活動の展開

新たなプランへの取り組み

今まではオーダーメイドが中心でしたが、今後は高齢者や軽度の介護を要する人等を対象としたパッケージツアーを充実させ、多くの方々に参加していただきたいと考えています。そのためには、広報の力を充実させる必要があります。

⑥ネットワークづくり

エスコートヘルパーの活用

旅行事業を進める上で、しゃらくのスタッフだけでは万全のケアができない場合もあります。そのような時には資格を持った専門性のあるエスコートヘルパーが頼りとなります。個人登録してもらうエスコートヘルパーには、ボランティアとしてやりたかったけれどもこれまでする機会がなかったからという人もあれば、仕事として取り組んでいる人もあります。

お客様とともに旅をすることでその人の夢や希望をかなえるお手伝いをさせていただくとともに、その体験から社会福祉の観点をもってもらう機会となるので、多くのエスコートヘルパーにぜひ参加してほしいと望んでいます。

⑤広報・情報共有

人を惹きつけるチラシや冊子の制作

多くの人に活動を知ってもらうには、まず広報から。それには人を惹きつける魅力あるチラシや冊子の制作が欠かせません。文字情報だけでも、レイアウトや組み方を変えるだけで、他とは違う目を引くものができます。



ひとことメッセージ

昨今では多くのシニア・シルバー世代が活発に行動していますが、行きたくても行けない、という事情がある方もいらっしゃいます。今元気な方でも将来のことを考えたとき、不安に思われる方もいることでしょう。しかし、「旅をあきらめない」という言葉通り、行きたいところに行ける、そんな人としてのあたりまえの欲求が、幾つになってもかなう社会でありたい、そんな社会をめざして活動を続けたいと思います。

活動の概要

千年の歴史がある植木のまち宝塚長尾地区から新たな福祉活動“園芸福祉”を発信しようと初級園芸福祉士が発起人となり、園芸福祉士の有資格者と地域住民をメンバーに平成16年に発足しました。

園芸を通じた健康増進と生きがいくくりを目的に、初級園芸福祉士養成講座や園芸福祉講演会・講習会の開催、特別養護老人ホームでのボランティア活動、花と緑のサポート隊活動、農園芸場「ゆうゆうガーデン」の開設、「楽農すくすく塾」等を宝塚市内（長尾地域）で実施しています。

平成17年に植木の休耕地を借りて始めた「ゆうゆうガーデン」は、メンバー共有の畑と個人区画からなり、中高年の25名ほどの会員が野菜や花を育て、地域のお年寄りや子どもたちに収穫物の還元（収穫体験、学童保育児の夏祭りに提供等）もしています。

また、「楽農すくすく塾」では、ここ植木のまちも畑から住宅地等に自然環境も大きくさま変わりしていることから、子どもたちに土に触れる機会を与え、作物を育てながら根気や体力・知力を養い、他人との関わり方を学んでほしいと、平成21年から児童に年間を通して野菜の作り方、保存方法、食育を指導しています。

成果

ゆうゆうガーデンのメンバーは、地域の定年退職者が中心ですが、口コミで参加者が増えています。メンバーからは仲間と語り、ともに体を動かすことで健康になったとの声が聞かれます。

また、収穫物を持ち帰ると家族が喜んでくれる、家族との会話が増えたといいます。家族や孫のために野菜を作るという役割ができ、生きがいとなっています。

楽農すくすく塾では阪神シニアカレッジの現役や卒業生に主な指導役になってもらっていますが、彼らにとっても学びを社会に還元する機会となっています。



「すくすく塾」畝づくり



ゆうゆうガーデン第1ガーデン

課題

現在のメンバーは60歳後半～82歳ですが、高齢化していくので60歳前半のメンバーを増やしたい。NPO団体として、事務局機能を充実するための人材がほしい。

夢・抱負・今後の推進方向

市民農園としてではなく、園芸福祉の理念を活かした休耕地活用ができれば、野菜や花づくりをしながら地域の人とコミュニケーションが図られ、心豊かな老後が送れると考えます。宝塚市を園芸福祉先進地にしたい。

子どもたちには畑仕事を通して根気よく取り組む姿勢を身に付けるとともに、机上の勉強では得られない自然の厳しさ、恵みを体感してほしい。

団体名：特定非営利活動法人ひょうご宝塚園芸福祉協会

氏名：（理事長）山本 道子 （理事・事務局長）立川 文代

事務所の所在地：宝塚市中山寺3丁目1-14

電話：0797-86-0619

FAX：0797-86-0619

E-mail：Fumiyotate@ybb.ne.jp

ノウハウ・コツ

①人材養成

各メンバーの発想を尊重しながらそれぞれが主体的に協力

自主的にやってみたい活動を提案し、みんなでその発案が実現するよう盛り立てていくようにしています。また、一緒に汗を流すプロセスを大切にしています。例えば、懇親のためにバーベキューパーティをしてはどうかと提案があれば、ゆうゆうガーデンで開催してはどうか、バーベキュー台をこしらえてはどうかと意見が出、得意な人がバーベキュー台を製作し、台を覆うボードにペイントするという具合にメンバーが協力し合って着々と進んでいきます。

得意分野を生かした役割分担が団体の中で自然とできあがっているのも、“みんなのためは自分のため”と互いに体力と状況を思いやりながら、活動を楽しんでいます。

⑨活動の展開

活動の素材を組み合わせ、楽しい企画とする

畑の収穫物（大豆、小豆など）は、研修交流会で行う料理体験の材料（味噌づくり、おはぎ、お菓子）にもなっています。料理体験でつくるものは同じものにならないよう、毎年少しずつ変えています。

研修交流会としてバスツアーを企画したときには、第3ガーデンでの黒豆の収穫に加え、三田市に住むメンバーが主催するそば打ちグループに協力いただき、そば打ち体験、試食、おみやげ付きとするなど、人やモノなど活動の素材をつなげて満足度や充実感のある楽しい企画にしています。

⑨活動の展開

収穫物を活用して地域の人と交流

「ゆうゆうガーデン」で収穫した野菜等を地域に還元したいと考え、地域の人に参加してもらおうイベントを企画しています。長尾まちづくり協議会（福祉部会）や、中筋児童館、特別養護老人ホーム宝塚まどか園、NPO 長尾すぎの子クラブなど地域の団体を通じて、広く参加を呼びかけています。

メンバーは、多くの人が畑を訪れ、土に触れてもらう機会にもなるので大歓迎です。特に、子どもたちには遊び道具を作って相手をし、互いに笑顔があふれてうれしい限りです。

また、当会が開催するバスツアーには、地域の希望者も参加してもらっています。



特養で作っている畑でのさつまいも掘り



第3ガーデンでの黒豆落花生の収穫風景

ひとことメッセージ

忌憚のない意見交換をして、コミュニケーションを密にすることが大切です。協会理事会、ゆうゆうガーデン世話人会、すくすく塾反省お茶会などで存分に意見を交換しています。

みんなの思いを形にしていく作業は会話の中から生まれます。アイデアは意見交換をしながら、どの方法がみんなの満足度を高めるかを判断基準にチョイスし、無理をしないことです。

心身の健康のため、安全なアロマセラピーを広める

活動の概要

ストレス社会で、誰もが心の健康を保つことが困難になっている今こそ、癒しを得意とするケアギバーとしてのアロマセラピストに活躍の場を広げたいと、関西を拠点として活動するアロマセラピストと、アロマセラピーを院内や併設施設で提供し、日本アロマセラピー学会の役員を務め、症例発表や研究などを続けている医師たちの協力を得て、'08年6月に『特定非営利活動法人関西アロマセラピスト・フォーラム』を設立しました。

心身の健康増進のためのアロマセラピーを正しく広めたいと、医療とアロマセラピーを結びつけた取り組みをしています。アロマセラピーを必要とする人や学びたい人等に対して、アロマセラピストの育成・支援事業、産婦人科・女性外来・ホスピス・介護施設内でアロマセラピー(アロマトリートメント)の実施、アロマセラピストのネットワーク構築事業、親子の絆を育むタッチケア事業、セルフケアを中心とした健康増進事業、アロマセラピーに関する調査研究・情報提供等を実施しています。また、丹波の休耕田にハーブも育てています。



「院内アロマセラピールーム」



「マタニティアロマケア」



親子の絆を育むタッチケア

「ラヴィングベビータッチケア講座」

成果

院内のアロマルームが増え、老人ホームでもアロマセラピーを定期的に行うようになりました。また、妊婦へのアロマセラピーや、ベビーマッサージのスクールを開催し、認定制度もスタートできました。ホスピスや介護施設でのボランティア活動も活発に行っています。

課題

財源が少なく、常勤の事務員の雇用ができません。また、スタッフそれぞれがメインの仕事を抱えているため、各種活動に対して慢性的な人手不足です。今後は財源と人材を確保し安定した活動を行いたいです。

夢・抱負・今後の推進方向

心と身体を一体としたホリスティック(全体的)な視点によるアロマセラピーをはじめとする補完・代替療法の健全な発展と普及、健康福祉の増進に寄与、アロマセラピストの一層の社会的地位向上をめざしたい。

そのためにも、アロマセラピーの効果について、積極的に研究成果の発表や、『ストレスケアのためのアロマセラピー』などメンタルヘルスの出前講座を各施設で開講します。

団体名： NPO 法人関西アロマセラピスト・フォーラム

氏名： 理事長・大門美智子 副理事長・宮里文子 (問合せ対応者)

事務所の所在地： 宝塚市川面 3-23-12

電話： 070-6564-4050 FAX： 0797-83-2311

E-mail： kaf@aroma-kansai.org

ホームページ： <http://aroma-kansai.org>

ノウハウ・コツ

⑥ネットワークづくり

アロマスクールの垣根を取る

アロマセラピーは民間資格なので、いろいろな団体のスクールがあります。その中で、私たちのNPOがめざす医療、介護、福祉分野で活用できるアロマセラピーに共感いただければ、どのスクールで学ばれた人でも活動に参加してもらえるよう呼びかけています。スクールなどの垣根を取り払って、思いを共有できるアロマセラピストとの出会いの場を広げています。



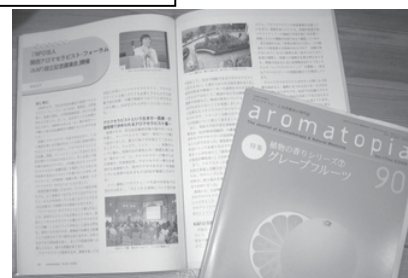
『明日から使える OneDay セミナー』

⑧組織運営

個人の特性を活かす

メンバーのスキルを活かせるように、それぞれの経験や得意分野や活動情報を教えてもらい、会として把握しています。

得意分野を知っておくことで、適正な場を紹介したり、お手伝いをお願いしたりしています。



『アロマ専門誌への連載』

⑨活動の展開

研究発表をする

アロマセラピーの効果を理解してもらうためには、認知度を上げる必要があります。そのために研究を行い、学会や専門誌等で発表することを大切にしています。

アロマセラピーが何に効果があり、どう活用すればいいのかを分かってもらうためには数値などの指標も大切です。データを提示してお話しできれば、きっと理解も深まると思います。



「アロマボランティア」

ひとことメッセージ

- この分野なら会の方向性と重なるという助成金をリサーチしておき、申請時期までに準備しておくこと。
- 忙しくて会議の時間も取りにくくなると、メールで用件を伝え、返信を受けることも増えてますが、メールは顔が見えないことからトラブルが増えるので、短時間でも、直接会って話し合える時間を持つことは大切です。
- メルマガは、定期的に発行することで会の情報を提供していけるので活用するといいですよ。

全社で、介助犬支援活動を通じ地域へ恩返し

活動の概要

'03年5月、毎日放送にて放映された、「シンシア～介助犬誕生のものがたり」を視聴した弊社代表が感銘を受け、「私たちにできることはないか」ということで活動が始まりました。「会社がここまで発展したのは、地域の人たちのおかげ。社会貢献でお返ししたい」と考えていたところでした。

まずは、全社員がビデオを観て、介助犬を知ることから開始。その後、営業店舗に募金箱設置、及び補助犬同伴可ステッカーを貼付。併せて、不動産チラシなど媒体物でのアピールや補助犬グッズの販売を行っています。さらに、社内行事や地域のショッピングセンターにてチャリティフリーマーケットを開催し、売上金の一部を日本介助犬協会やシンシア基金に寄託。その総額は200万円を超えました。本社には介助犬を紹介するコーナーも設けています。

成果

盲導犬の認知度は高いですが、聴導犬、介助犬はまだ知られていません。来社・来店された方に介助犬の存在を知っていただくことができました。

身体障害者補助犬法は、盲導犬、聴導犬、そして、肢体不自由者のために日常動作の補助を行う介助犬を総称して補助犬と定義しています。弊社は、介助犬シンシア（'06年3月逝去）が、本社所在地と同じ宝塚在住の木村佳友氏の介助犬であったこともあり、介助犬を主な対象に支援しています。

シンシアや後継のエルモと使用者の木村氏に会うと自分の無力さを実感します。そして、日頃の自分をいさめ、謙虚な心を思い出すことによって、他人の立場に立って物事を考えることができます。微々たることでも、他人様の役に立つということが、社員の自尊心にも繋がっていると思います。

課題

社内における活動の課題よりも、①介助犬の不足 ②身体障害者補助犬法の認知不足により補助犬同伴の入店が拒否されることは大きな課題です。そこで、'10年1月より、当社での不動産購入一契約につき1,000円または10,000円を、社会福祉法人日本介助犬協会などに寄託する「ご契約募金」を始めました。金銭的支援に加え、ご契約者の方々への啓蒙が可能となり、認知向上の一助になると考えます。

夢・抱負・今後の推進方向

身体障害者補助犬法の認知向上に向けた、これまでの活動を地道に続けること。また、月1回シンシアの日（毎月14日）を設け、1円募金を実施していきます。

さらに、弊社リフォーム部門にて、福祉リフォームに積極的に取り組む（福祉関係の団体との連携が考えられます）こと。全国初の介助犬専門訓練施設「介助犬総合訓練センター」（'09年5月開設）である「シンシアの丘」を訪問することが大きな目標です。社員一人ひとりが自らできることを考え、主体的に取り組んでいきます。

団体名：株式会社ウィル

氏名：岡田 洋子

事務所の所在地：宝塚市逆瀬川1-14-39

電話：0797-74-7272（代） FAX：0797-74-7078

ホームページ：http://www.wills.co.jp

ノウハウ・コツ

全社への理解浸透

「それは、〇〇部がやっていること」「それは、△△さんの担当だから」というような他人ごとにせず、当事者意識を持ってもらうことが肝要。また、大層なことでもなく、一人ひとりができることを自ら考え、行動することが大切だと思います。（組織風土や文化によるところは大きいと思いますが）

現場を知ること

実際に現場に足を運ぶことも大切なことだと思います。弊社の場合であれば、木村氏と介助犬エルモに実際に会うことで、実感値がまったく違いました。来社いただいたり、訪問させていただいたりすることで、机上の空論や想像で終わらず、発想が広がります。臆せず動くことです。



木村氏宅訪問



ひとことメッセージ

こんな時代だから・・・という理由で、自分の中にある「何か役に立ちたい」という思いを抑え込んでしまわないでください。今だからこそ、一人ひとりのささやかな気持ちや熱い思いが世の中を変えるのだと思います。どんな些細なことでもいいのです。自らが考え、発信し、動くことが大切です。ともにこの世の中をよくしていきましょう。

点字名刺を通じた知的障害グループへの支援活動

活動の概要

活動のきっかけは、浴室用車いすを出品した国際福祉機器展（平成10年）で、名刺に点字を打つ機械に出会い、三木市で導入できないかと考えました。

構成メンバーは、社長、専務、部長の3名で、これまでに、三木市手をつなぐ育成会が運営する知的障害支援施設「じゃがいもの家」に、点字付き名刺の作成と販売を働き掛けました。

目的は、次のとおりです。①障害者の自立支援活動になればと思いました。②名刺を通して、メンバーと名刺作成を依頼した人との社会的つながりのきっかけ、橋渡しになればと考えました。③点字付き名刺が普及することにより、障害者への理解を深める一助になればと思いました。④点字付き名刺を使用する人には、名刺交換することが、「小さな社会貢献の実践になります」ということをPRして普及活動に努めました。

（連携した団体）

第一電子(株)さんには、点字プレス機を購入していただき、その機械を「じゃがいもの家」に、無償貸与するという形で支援していただきました。また、会社の売り上げの一部を機械の償却に充てていただきました。

第一電子(株)さんは、私たちの取り組みに共感してくれる大事なパートナーです、お陰で活動の広がり一気に弾みがつきました。

成果

当初は、認知度が低かったのですが、印刷機器を扱う企業が名刺の注文をうけるときに、点字付き名刺のPRをしていただきました。また、知り合い、知人、取引先、三木市の司会議員や職員の方々へPR活動を手分けして行いました。

その後、繰り返し注文していただく方や、名刺交換した人が、申し込みをしていただくなど、市外から県外へと注文が来るようになりました。現在、月に数千枚程度の注文がきております。

課題

出来る限り、いろいろな会合、異業種交流会などに積極的に参加し、普及活動に努めております。名刺には、製作者、連絡先を印刷しています。年間500名上の方と現在名刺交換をするように取り組んでいます。

夢・抱負・今後の推進方向

現在、神戸市のロータリークラブと連携して、神戸でもこの支援活動ができないか、検討しております。このような活動を通じて、障害者への理解を深め、「小さな社会貢献活動」のさらなる普及につながればいいなと、願っています。

団体名：東光機材株式会社

氏名：福祉事業部 藤田 治

事務所の所在地：三木市岩宮町140-10

電話：0794-82-2970 FAX：0794-82-9076

E-mail：t002@tokokizai.co.jp ホームページ：http://tokokizai.co.jp

共感してくれる人をいかに見つけ出すか

普段から、さまざまな分野の人との交流を通じて、信頼関係を築くことが大切だと思います。

相手にとって、役に立つ情報を自ら情報発信していくことにより自然といろいろな情報が自分にもたらされるようになります。

「ギブ&テイク」よりも、まずは「ギブ&ギブ」がスタートだと思います。

品質を保つことを第一に、ちょっとした心遣いを加える

障害者の自立支援であっても、やはりお客さまに買っていただく商品は、その品質が命です。このため、不良品を出さないために、全品チェックの実施を徹底していただいています。

その上で、お客さまとのコミュニケーションを確保するため、納品の時にメッセージカードを付けるようにしています。



ひとつことメッセージ

今、企業では「生き残りをかけて」という言葉が、よく使われます。

そうではなくて、これからは「共に生き続けるためには」と言い換えるべきだと思います。それが目指すべき「共生、共創」だと思います。それを企業に伝えることが大切ではないでしょうか。上をみたらきりがありません。

今の世相は、上昇志向が強すぎます。上を見たら、きりがありません。

「食」を通じた若い世代と高齢者がふれあう世代間、地域間の交流の場づくり

活動の概要

淡路島の農産物を通じて、農村地域と都市地域とのイベントを実施し、互いにふれあう機会を持つとともに都市と農村の相互理解・相互交流を図っています。

また、「食・安全」をテーマに世代間・地区住民間の交流イベントや料理教室、食の安全セミナー、「食」を基調とした地域マップ作成等の活動を展開しています。

成果

「食・安全」をテーマにした交流イベント等を実施することにより、世代間の交流が深まり、地域の活性化につながっています。

課題

運営事務局のスタッフが少ないため、活動運営の新しい取り組みができず、また、積極的に自主的な活動につながっていません。推進委員会の構成団体の役員が、広場の役員になっていますが、その役員が当て職であり、1年任期であるため、その取り組みに温度差があり、苦慮しています。

夢・抱負・今後の推進方向

人口減少、少子高齢化、核家族化により、地域の人と人とのふれあいが希薄化している中で、広場を拠点として地域の人々が集い、地域コミュニティの醸成を図ることによって、地域住民を主体とした交流が推進されると共に、地域コミュニティの土壌づくりが培われるようにしたいです。

ひろばの情報を紙媒体にして、地区に配布できるようにしたいです。また、23年で助成金がなくなることを念頭に活動の継続を検討していきます。



1回目
みんなで箱ずしや素麺を作りました



2回目
手作りかかしの前でハイチーズ

団体名：倭文ふれあい広場地域推進委員会

氏名：(会長) 加地 耕史 (事務局長) 北谷 雅良

事務所の所在地：南あわじ市倭文長田8-1

電話：0799-46-0301 FAX：0799-46-0112

E-mail：mk51@oasis.ocn.ne.jp

ノウハウ・コツ

②活動資金

会費の徴収やコミュニティビジネスの検討

現在、資金確保の取り組みは行っていませんが、今後検討していきたいと考えています。案として、活動してきた広場の組織を継続させ、地域で話し合いを十分に行い、利用者による会費徴収等の運営に工夫を凝らしていきます。また、コミュニティビジネスを考えていきます。

このほか、活動の基金を積み立てています。施設の利用料の軽減について施設管理者と話をする機会をつくっています。地区（各集落）の助成金事業の事務業務の委託、広場の機器の使用経費徴収等を計画中です。

①人材養成

地域の人を活動に

研修・教室等を行う際、できるだけ地域の人に講師になっていただいています。

活動内容ごとに部会を設置し、役員は必ずいずれかの部会を組織するとともに、活動を行う際には参加者各人が何らかの（役割を）担うようにし、次への人材づくりとなるように配慮をしています。

⑥ネットワークづくり

農村と都市の交流

淡路島の農産物を通じて、神戸市多聞東地区との交流イベントを開催しました。

全3回の交流イベントには延べ300名以上の参加があり、淡路の食、環境の良さに都市部の参加者からは「来年もやってほしい」など多くの好評の声があり、農村と都市との住民交流を深めることができました。

○1回目 20.8.24 両地区役員交流会（都から農へ）：両地区役員の初顔合わせ会を兼ね、倭文地区の郷土料理を一緒に準備、会食し交流と今後事業を話し合いました。

○2回目 20.10.19 倭文地区「かかし祭り」への参加（都から農へ）：毎年行われている倭文地区「かかし祭り」の手作りかかしコンテストへ多聞東地区住民が手作りかかしを応募しました。

○3回目 20.11.23 農・都(no-to)ふれあいバザールへ参加（農から都へ）：神戸多聞東地区で毎年開催される「エコフリマ」会場にて、「農・都ふれあいバザール」として倭文地区から地元農産物の即売会や、焼き芋の振る舞い、淡路農産物を使ったスイーツ試食、淡路クイズ、かかしコンテスト出展かかしの展示など交流イベントを開催しました。



3回目
焼き芋は子どもたちに大人気



3回目
淡路の地元野菜はあっというまに売り切れました

ひとことメッセージ

新たな事業やコミュニティビジネス等について研究し、地域の活性化のためのノウハウの習得に努めています。また、地域の担い手に重点を置き、運営の企画に新しい人の参画を呼びかけ、新しい企画を生み出せるように努めています。